

下關港修築工事概要

(昭和五年三月)

緒言

下關港ハ本州ノ西端關門海峽ノ西北ニ位シ、門司港ト相對ス。港内ハ海峽ノ咽喉部ヲ扼スル彦島ノ丘陵ニ抱擁サレ、日本海方面ヨリ來タル激浪ヲ遮リ、東南ハ九州北部ノ重疊タル連山ニ面シテ瀬戸内海方面ヨリ來タル風浪ヲ防ギ、地形上天然ノ良港ナルモ、本州ト彦島トノ間ニ介在スル小瀬戸ハ、潮汐ノ干満時ニ當リ潮流ヲ港内ニ導キ、海峽本流ノ潮流亦其ノ一部ヲ襲フヲ以テ、船舶ノ操縦困難ナルト共ニ港内概シテ水深淺ク、泊地乏シキハ本港ノ最モ缺陷トスルトコロナリ。

關門海峽ハ古來本邦ニ於ケル最モ重要ナル通路ニシテ、本港ハ此ノ海峽内ニ於テ重要ノ位置ヲ占メ、夙ニ赤間ケ關ト稱シテ殷盛ヲ極メシモ、明治時代ニ至リテ海運界ノ

形勢一變シ、船型ハ次第ニ増大シ、出入船舶亦漸ク頻繁トナリ泊地ノ狹隘ヲ告ゲ、一面市ノ繁盛ニ伴ヒ人口次第ニ増殖シ汚物ノ流出及市街擴張ノタメ山地ヲ開拓シ土砂ヲ流出スル等、沿岸ハ次第ニ埋没シテ水深ヲ減ズルニ至リ、明治二十七年八月下關市ハ工費五萬六千餘圓ヲ投ジテ唐戸町地先灣入部附近水深最モ淺キ部分約三萬平方米ヲ埋立テ以テ沿岸整理ヲ行ヒ、帆船及舢舨等ノ繫留ヲ容易ナラシメタルヲ以テ、此處ニ門司稅關出張所、關門渡船場ヲ設ケラレ、物品問屋組合ハ沿岸ニ上屋・倉庫等ヲ建設シテ荷役ノ便ニ供シ、次デ同三十二年七月ヨリ同三十四年三月ニ互リ元山陽鐵道株式會社ニ於テ西細江町外四大字地先ノ海面十萬八千餘平方米ヲ埋立テ、此處ニ停車場ヲ設ケ同時ニ細江町地先ニ船溜ヲ設ケタリ。其後鐵道ガ國有ニ歸シテ以來漸次國費ヲ投ジテ關門連絡及關釜連絡船ノ繫留設備ヲ完成シ、其前面積約四十萬平方米ハ關門海峽改良工事ニ於テ水深干潮面以下七・六米ニ浚深シ、尙ホ停車場ノ西端ニ關門間貨車航送船ノ發着場ヲ設ケタルヲ以テ此附近ハ全ク面目ヲ一新セリ。

然ルニ本港ハ山陽鐵道ノ終點タルト同時ニ、關門及關釜連絡ノ起點ニシテ、本州・九州間ノ連絡、内地ト滿鮮地方交通上ノ要衝ニ當リ、且本邦西部ノ大漁區ヲ控ヘ其ノ漁獲物ノ大部分ハ本港ノ吞吐ニヨルヲ以テ、本港ハ門司港ノ外國貿易ヲ主トスルニ反シ内國貿易ヲ主トシ、出入船舶及輸出入貨物ハ年ヲ逐ンテ増加スルモ、港内水深淺ク大船ヲ碇泊セシムルコト能ハズ、且海陸連絡設備ニ至リテハ前記停車場構内ノ一部ヲ除クノ外全ク之レヲ缺キ、外國貿易ノ如キハ其ノ大部分ヲ門司港ニ入港スル船舶ニヨリ舢舨ヲ介シテ之レヲ行フノ狀勢ニシテ、貨物ハ停滯シ荷役費ハ多額ヲ要スル等、近時海運界ノ異常ナル發達ニ副ハザルコト甚シキガ故ニ、本港沿岸ノ全部ニ互リテ之レガ整理埋築ヲ行ヒ、繫船岸壁ヲ築キ海面一帶ノ浚深ヲ行ヒ、以テ海陸連絡設備ヲ完成スルコトハ寔ニ刻下ノ急務ナリトシ、下關市ニ於テ大正二年之レガ計畫ヲ立テ既ニ工事ニ着手セシモ一部市民ノ反對スル處トナリ中止スルノ已ムヲ得ザルニ至レリ。爾來七ヶ年市當局及有志熱心ニ修築工事ノ再計畫ヲ企圖セシガ、大正十年ニ至リ機漸ク熟

シ國ニ於テ本工事ヲ直轄施行スルコトナレリ。

爾來銳意工事ヲ施行シ九ケ年ノ星霜ヲ經テ、昭和五年三月工事全ク竣功スルニ至レリ、今其ノ概要ヲ左ニ叙セントス。

計畫ノ大要

本工事ハ、當初豫算三百六十一萬圓（内半額ハ下關市負擔）ヲ以テ、大正十年度以降七ケ年ノ繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシガ、大正十二年ニ至リ國家財政ノ都合ニ依リ工期ヲ一ケ年延長シ更ニ大正十四年度ニ於テ一ケ年繰延べ、竣功期ヲ昭和四年度トスルコトナレリ。而シテ豫算額ハ昭和三年度ニ於テ十五萬七千圓ヲ、同四年度ニ於テ一萬一千圓ヲ減額シ總豫算三百四十四萬二千圓ニ更正セラレタリ。

計畫ノ大要左ノ如シ。

(イ) 停車場以東ニ屬スル部分ハ内外貿易用ニ充ツルモノニシテ、其ノ東端ハ阿彌陀

寺町地先内務省埋立地ニ接續シ、現在海岸ニ沿ヒ幅五十四米内外ヲ干潮面以上三・八米ニ埋立テ、其ノ前面ニハ東端ヨリ干潮面以下二・七米岸壁延長二百六十七米、五・四米岸壁延長二百二十七米、七・二米岸壁延長五百九十六米ヲ設ケ、七・二米岸壁ノ西端延長線ニ沿ヒ長百十八米ノ防波堤ヲ築キ、其ノ内部ヲ船溜ニ充テ、現在海岸ニ沿ヒ三・六米岸壁延長百九十六米、一・八米岸壁延長四百九米ヲ築造スルモノトス。

而シテ五・四米及七・二米ノ兩岸壁ニ於テ、一、五〇〇噸乃至三、〇〇〇噸級ノ汽船九隻ヲ繫留シ、其他ノ岸壁ニ於テハ舢舨船ヲ繫留セントスルモノナリ。

(ロ) 停車場以西ニ屬スル部分ハ漁港ニ充ツルモノニシテ、下關驛西端貨車航送船發着場ノ北方護岸ニ接續シ、中央部ニ於テ幅百九米内外ヲ干潮面以上三・八米ニ埋立テ、其ノ前面ニ五・四米岸壁延長三百四十三米ヲ設ケ、此ノ東方ニ接シテ護岸延長百七十七米、西方ニ接シテ二・七米岸壁延長百三十八米及護岸延長三十米ヲ

築造スルモノトス。

六

而シテ五・四米岸壁ニ於テ、一、〇〇〇噸内外ノ遠洋漁船四隻乃至六隻ヲ繫留セシメ、二・七米岸壁ニ於テハ、近海漁船ヲ繫留セシメントスルモノナリ。

(ハ) 埋築面積ハ總計十三萬七千五百平方米ニシテ、内東部八萬三千餘平方米西部五萬四千五百餘平方米トス。

而シテ埋立地上ニ施設スベキ倉庫、上屋、鐵道、道路其他ノ諸設備ハ、總テ後日ノ經營ニ待ツモノトス。

(ニ) 岸壁ノ前面ハ、總テ岸壁深ト同深ニ浚渫シ、尙ホ西部埋立地前面ニ横ハレル淺洲ハ、干潮面以下三米ニ、同所ト停車場トノ間ニ介在スル淺洲ハ、同五・四米ニ浚渫スルモノニシテ、浚渫土量約四十萬立方メートルトス。

以上既定計畫ノ外豫算ニ殘餘ヲ生ジタルヲ以テ、昭和三年度及同四年度ニ互リ、左記工事ヲ追加施行セリ。

(ホ) 唐戸町地先二・七米岸壁前面ニ、長二十米、幅九・一米ノ鐵筋混凝土製浮棧橋二箇所ヲ設ケ、一ヲ關門渡船用ニ、他ヲ一般公私船舶用ニ充テ、尙ホ岬之町地先一・八米岸壁前面ニ長一四・五米、幅六・四米ノ鐵筋混凝土製浮棧橋一箇所ヲ設置シ、汽艇ノ發着繫留ニ便セリ。

工 事 概 況

設備及船舶機械 本工事ハ門司港修築工事ト其ノ性質略同一ノモノナルヲ以テ、工場ハ別ニ設ケズ、門司港修築工場内ニ併置シ、作業設備ヲ彼是共用スルコトトセリ。而シテ船舶機械類ノ修理製作ハ主トシテ關門海峽改良工事所屬下關機械工場ニ於テ施行シ、其ノ簡易ナルモノ又ハ混凝土用各種型枠・進水臺・製作臺等ノ如キ、現場ニテ施工スルヲ便宜トナスモノハ修築工場ニ於テ製作セリ。又浚渫工事・岩壁床掘工事及埋立工事(下水工事ヲ除ク)ハ作業船艇運用上ノ便宜ノタメ之レヲ關門改良事務所ニ於テ

施行セリ。

八

船舶機械、器具類ハ主トシテ關門海峽改良工事及門司港修築工所用ノモノヲ轉用シ當工所用設備トシテハ、單ニ函進水臺壹臺、五・四米及七・二米岸壁用函製作臺三臺、起重機三基及型枠ノ設備、並ニ起重機船一隻、混凝土混和機一隻ノ建造等ニ止メ浚渫及床掘ノ用ニ供スル船艇トシテ曳船一隻、プリストマン式浚渫船一隻及土運船五隻ヲ建造、若クハ購入セリ。

設計並ニ施工 工事ハ大別シテ、岸壁及護岸・浚渫・防波堤・埋立並ニ棧橋ノ五トス。

一 岸壁及護岸工事

岸壁五・八米及七・二米ノモノハ鐵筋混凝土製函ヲ、同一・八米二・七米及三・六米ノモノハ、同L型塊ヲ使用築造セリ。其ノ構造ハ基礎床掘ノ上ニ所定深迄ノ捨石ヲ施シ、潜水夫ヲ使役シテ其ノ上部ヲ既定ノ地形ニ均ラサシメ、函ニアリテハ之レヲ其ノ上ニ沈設シ、函内前半部ニ水中混凝土ヲ、後半部ニ土砂ヲ填充シ、函

ノ頂部ニハ場所詰混凝土ヲ施行セリ。L型塊使用ノモノニアリテハ地形均ノ上ニ塊ヲ据付ケ背面ハ雜石ヲ以テ相當裏込ヲナシ、其ノ背面ヲ埋立テ、笠石ヲ据ヘ以テ計畫高ニ達セシメ、防舷材及繫船柱ヲ適當ノ間隔ニ配置セリ。

而シテ東部工區ニ於テ五・四米及七・二米ノ兩岸壁ト二・七米岸壁ノ一部ニハ岸壁ノ補強トシテ幅八米ノ前床混凝土工ヲ施行シ其ノ他各岸壁ノ大部分ニハ幅三・六米又ハ四・五米ノ石張斜路ヲ設ケタリ。

鐵筋混凝土製函ハ縱ニ一箇横ニ五箇ノ隔壁ヲ設ケ一函ヲ十二室ニ分チ、鐵筋ニハ總テ直徑八分ノ五吋ノ丸鋼ヲ使用シ、混凝土ノ配合ハ「セメント」一、砂二、砂利四トセリ。而シテ混凝土打終了後三週間乃至四週間ヲ經テ進水シ、之レヲ曳航シテ所定ノ位置ニ据付ケタリ。

進水ハ各種船舶ノ進水ト同様ニシテ先ヅ進水臺ノ固定臺表面ニ「グリース」ヲ塗布シ、其ノ上ニ軟石鹼及種油ヲ撒布シ、其ノ滑走準備ヲ終ヘテ、製作臺ヲ上架セル鐵製砂管ヨリ順序良ク砂出シテ、製作臺ヲ徐々ニ下降

セシメ進水臺ト密着セシメテ最後ニ製作臺ヲ支持セル楔留木ヲ落下重錘ニヨリテ打外セバ函ハ自重ニ因リテ製作臺ニ載レル儘傾斜セル進水臺上ヲ沁リ、水中ニ進入シテ浮揚ス。

Ⅰ型塊及方塊ハ、混凝土打終了後約一週間ヲ經テ、起重機船ニヨリ之レヲ他ニ移シ其ノ跡ニ順次繰返シ製作セリ。混凝土ノ配合ハⅠ型塊ハ「セメント」一、砂二、砂利四、方塊ハⅠ型塊ト同様ニ或ハ「セメント」一、砂三、砂利六ノ割合トセリ。塊ハ凡テ起重機船ヲ使用シ之レヲ吊リ所定ノ位置ニ運搬シ据付ヲナセリ。

函及Ⅰ型塊ノ主要寸度及岸壁工事功程左表ノ如シ。

函主要寸度表

種別	長	高	吃水	幅		混凝土容積	鐵筋重量	函重量	摘要
				上	下				
五・四米岸壁函	一九・〇九 ^米	七・七三 ^米	六・〇〇 ^米	四・二七 ^米	六・三六 ^米	二三一 ^{立米}	六・四三 ^噸	五・五七 ^噸	
七・二米岸壁函	一九・〇九	九・五五	七・七七	四・三三	五・七六	三二四	七・五九	七・六八	
防波堤函	一八・九一	六・八二	四・八五	四・一八	四・七九	一七四	七・八一	四・一九	
浮函(唐戸)	二〇・〇〇	二・七三	一・六一	九・〇九		九六	二九・六一	二七〇	棧橋用
浮函(岬町)	一四・五四	二・二三	一・五五	六・三六		六〇	一四・二六	一四六	〃

岸壁護岸棧橋及防波堤單位當工費表

類	工事名 延長 工費	東部 2.7 米突岸壁		東部 5.4 米突岸壁		7.2 米 突岸壁		防 波 堤		3.6 米 突岸壁		1.8 米 突岸壁		東 部 護 岸		竹 崎 護 岸		西部 5.4 米突岸壁		西部 2.7 米突岸壁		今 浦 護 岸		類	工事名 數量 工費	唐 戶 棧 橋		岬 之 町 棧 橋								
		2 6 7 * 4		2 3 6 * 3		5 9 6 * 3		1 2 7 * 3		2 3 0 * 0		4 0 0 * 0		1 * 5		1 7 8 * 0		3 4 0 * 2		1 3 7 * 5		3 0 * 8				2 箇 所		1 箇 所								
		工 費	單位當工費	工 費	單位當工費	工 費	單位當工費	工 費	單位當工費	工 費	單位當工費	工 費	單位當工費	工 費	單位當工費	工 費	單位當工費	工 費	單位當工費	工 費	單位當工費	工 費	單位當工費			工 費	單位當工費	工 費	單位當工費	工 費	單位當工費					
床捨地函塊	掘	8,599.00	32.15	5,177.85	21.91	7,492.94	12.57					13,343.16	33.63					9,157.09	26.65	2,416.51	17.71				浮函 橋	浮屋取 渡橋懸 上架保 護杭	函根付 橋柱屋 架設 保護杭	35,843.94	17,921.97	9,086.92	9,086.92					
	石	3,191.99	11.94	9,236.78	39.08	10,494.15	17.60	14,548.07	114.32	21,699.38	94.35	8,603.24	21.51			11,449.78	81.52	23,140.96	67.35	5,448.70	39.43	199.71	6.66													
	形均	3,732.84	13.96	11,832.32	50.06	25,421.62	42.63	4,353.23	34.21	6,245.94	27.16	9,562.02	23.91			1,091.45	6.16	26,222.19	70.32	7,600.57	55.01	263.58	8.78													
	据付			61,213.68	259.01	183,817.13	310.59	27,504.88	216.13									105,197.08	306.16																	
	据付	32,282.60	120.71							36,254.94	157.63	40,782.83	101.96									22,478.07	172.69													
	内(混)			28,998.08	122.70	83,027.86	140.29	16,439.98	129.18										42,124.11	122.60																
	土砂)							699.78	5.50										18.51	0.05																
	頂部混	1,488.47	19.21	9,340.30	39.52	26,029.01	43.65	6,701.64	52.66	832.67	30.61	552.25	27.61						23,660.99	68.83																
	裏込			361.55	1.53	159.59	2.7					14,210.16	35.53					3,209.02	18.10	6,171.34	17.96	507.43	3.67													
	附段	2,299.37				889.45		1,186.97		1,102.19		2,170.61						219.90				1,392.80														
	笠石	2,529.26	10.33	1,901.13	8.04	3,276.46	5.49	2,195.50	8.50	3,519.07	14.95	3,981.02	9.35	22.47	14.98																					
	防舷材	537.12	12.21	983.59	26.58	5,674.40	60.37	1,830.55	39.80	765.66	20.69	3,146.26	50.75						1,219.65	32.96	57.47	28.74														
	防舷材修	1,534.35	38.36	4,271.11	115.44	6,592.51	109.88													715.02	27.43	47.20	23.60													
	繫船柱	488.09	24.40	1,769.88	136.14	5,695.09	177.97	491.43	27.30	351.39	19.02	362.11	12.49						2,400.71	126.35	248.46	27.61														
	斜路	6,677.96	39.26									6,688.99	30.28	8,334.10	25.53	120.38	80.25																			
方塊据付					1,209.41	75.59											4,590.12	93.68	9,910.10	97.16	4,786.70	95.73	2,189.39	95.19												
石護岸補修																																				
照明燈							604.22	604.22																												
浮棧橋繫留所												2,366.08	2,366.08																							
防舷材取付箱			451.03	12.19	736.91	7.84																														
前床混泥土	652.65	31.08	5,251.45	22.22	13,754.95	23.07																														
雜費	2,769.64	10.36	3,369.30	14.26	9,591.04	16.08	1,517.86	11.93	2,480.59	10.79	2,280.98	5.70	5.26	3.51	613.34	3.46	7,855.98	22.86	1,411.49	10.15	119.17	3.97														
計	66,783.34		144,158.55		383,862.52		87,074.11		79,940.82		109,694.82		282.42		27,506.65		257,793.73		46,425.40		4,232.53															

備考 本表中單位當工費ハ塊据付・方塊据付・照明燈ハ1個當、防舷材・防舷材修理ハ1組當、繫船柱・浮棧橋繫留所・防舷材取付箱ハ1ヶ所當、其他ハ米突當工費ヲ示ス

L型塊主要寸度表

種 別	長	高	幅		混 凝 土 容 積	鐵 筋 重 量	塊 重 量	摘 要
			上 幅	下 幅				
二・七米 岸壁(今浦)	一・五三 ^米	六八二 ^米	〇・六一 ^米	四・二四 ^米	八・二 ^{立米}	〇・六三 ^噸	一九六 ^噸	
同 (東部)	一・八二	五七六	〇・六一	三・九四	八・二	〇・七六	一九八	
三・六米 岸壁(岬町)	一・五三	六六七	〇・六一	四・二四	八・三	〇・七六	一九九	
一・八米 岸壁(細江)	一・八二	三四八	〇・六一	三・四六	六・八	〇・六一	一六五	

岸壁工事功程表

種 別	延 長	工 費	單 位 當 費	着 手 年 月	竣 功 年 月	構 法	摘 要
二・七米 岸壁	二六七・四 ^米	六六七・三三 ^円	二四九・七五 ^円	大正 一三、九	昭和 五、二	L型塊据付	
五・四米 岸壁	二二六・三	一四四、五六・五五	六一〇・〇	一三、五	五、二	函 据 付	
七・二米 岸壁	五九六・三	三三八、八六・五三	六四三・七四	一三、五	五、二	同	
三・六米 岸壁	二二〇・〇	七九、九四〇・八二	三七七・五七	昭和 二、二	四、二	L型塊据付	
一・八米 岸壁	四〇〇・〇	一〇九、六四八・八二	二七四・二四	二、二	四、二	同	
護 岸	一・五	二六・二四三	一八八・二八	四、〇	四、三	空 積	

西	竹崎護岸	二六〇	二七、〇六六五	一五、五三	大正一三、九	昭和三、〇	空積及練積
工	五、四米岸壁	四〇・二	二五七、七九七三	七五、七七	一、二	三、〇	函据付
工	二、七米岸壁	一七、五	四六、四三三、四〇	三三、七六四	三、三	三、〇	L型塊据付
區	今浦護岸	三〇、八	四、三三三、五五	一、三、七四三	一四、三	二、五	空積及練積

二 浚渫工事 浚渫ニハ主トシテ鋤鏈式浚渫船ヲ使用シタル外、「プリストマン」式浚渫船ヲモ併用シ、大正十年六月ヨリ着手シ、之レヲ所定ノ場所ニ運搬投棄セリ。而シテ土質堅硬ナル箇所ハ碎岩船ヲ用ヒ、浚渫ノ功程ヲ増進セシメタリ。其ノ功程ヲ示セバ左ノ如シ。

浚渫工事功程表

箇所	浚渫面積	浚渫深度	浚渫土量	工費	單位當工費	摘
東工區	一八九、三三三	一八一、七、三米	八五七、四七二	二七、八三六、一四	〇、九五	〇、三三
西工區	一〇四、六三九	二七、一、五、五	八五七、四七二	二七、八三六、一四	〇、九五	〇、三三
計	二九三、九七	一八一、七、三	八五七、四七二	二七、八三六、一四	〇、九五	〇、三三

三 防波堤工事 七・二米岸壁西端延長線ニ沿ヒ長百二十七米二ノ防波堤ヲ設ケタルモノニシテ、干潮面以下三・六米ノ捨石堤上ニ高六・八米ノ鐵筋混凝土函ヲ据付ケ、函内ニハ其兩側側壁ニ接シテ配合比一・三・六ノ方塊ヲ各室ノ側壁ニ平行シテ吊込ミ兩側塊ノ内方ノ空所ニ土砂ヲ填充シタル後、函内ノ排水ヲナシ、壁ト塊トノ間隙ニ配合比一・二・四ノ混凝土ヲ填充セリ。

斯ノ如クセル函ノ上ニハ兩側ニ配合比一・二・四ノ混凝土壁ヲ以テ施工シ其ノ中間ニ土砂及砂利ヲ填充シ其ノ上ヲ厚サ約二十糎ノ混凝土ヲ以テ覆ヘリ。而シテ防波堤頭ニハ照明燈ヲ設置セリ。其ノ功程次表ノ如シ。

防波堤工事功程表

種別	延長	工費	單位當工費	着手年月	竣功年月	構法	摘
防波堤	二七、三米	六、〇七、二	六三、七九	昭和二、九	昭和四、七	函据付	要

四 埋立工事 各岸壁内部ノ埋立ハ關門海峽改良工事及門司、下關兩港修築工事浚

溝ヨリ生ジタル土砂ヲ、土運船ヲ以テ干潮面以上約一・五米迄直接捨込ヲナシ、夫レヨリ上層ハ一旦埋立地前ニ投棄セル土砂ヲ唧筒船ニテ吸揚ゲ埋立地内ニ排出セシメタリ。其ノ功程次表ノ如シ。

埋立工事功程表

箇所	埋立面積	埋立平均深	埋立土量	工費	單位當工費		摘	要
					平米付	立米付		
東工區	八五、六三三	五、六	一、二六、四四四	一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇・七九	〇・〇二	東工區ノ面積ハ概數ヲ示ス	
西工區	五三、七七七	五、六	一、二七、四四四	一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇・七九	〇・〇二		
計	一三九、四一〇	五、六	二、五三、八八八	二〇、〇〇〇、〇〇〇	〇・七九	〇・〇二		

尙ホ埋立ニ伴ヒ舊海岸下水口ヨリ、新岸壁ニ導クベキ下水延長工事ヲ行ヒタルモノ幹線十四、延長九百四十二米、支線二、延長千七十四米、此ノ工費約八萬六千九百七十圓ナリトス。

五 棧橋工事 唐戸町地先二・七米岸壁前面ニ、長二十米、幅九・一米ノ鐵筋混凝土製浮棧橋二箇所、岬之町地先一・八米岸壁前面ニ、長サ十四・五米、幅六・四米ノ鐵筋混凝土製棧橋一箇所ヲ設置セリ。而シテ唐戸町地先ノモノハ、各所定ノ位置ニ、鐵筋混凝土杭ヲ基礎トセル渡橋懸柱及上屋支柱ヲ、渡橋ノ兩側ニ設置シ、懸柱ニハ平衡重錘ヲ以テ渡橋ヲ支持スベキ裝置ヲ施シ、各浮函ハ八箇ノ混凝土製錨塊ニ鐵鎖ヲ以テ碇繫シ、尙ホ棧橋ニハ屋根ヲ、渡橋ニハ屋根竝ニ兩側ヲ圍ヒタリ。岬之町地先ノモノハ、豫メ岸壁ニ凹形切込箇所ヲ設ケ、其ノ中ニ鐵筋混凝土浮函ヲ嵌込ミ、岸壁ノ兩袖部ニ突起部ヲ設ケ之レヲ碇置スルノ裝置ヲ施シ、一方ノ袖部ヨリ渡橋ヲ架設セリ。(浮函ノ寸法ハ前掲函主要寸度表參照) 其ノ功程次表ノ如シ。

棧橋工事功程表

種別	數量	工費	單位當工費	着手年月	竣功年月	構法	摘	要
唐戸棧橋	貳ヶ所	七三、〇九六	三六、五四八	昭和三〇	昭和五一	浮函		
岬之町棧橋	壹ヶ所	一〇、四六三	一〇、四六三	同	同	同		

以上諸工事ハ西工區及東工區ニ分チテ施行セリ。

西工區ハ停車場以西ニ屬スル部分岸壁延長四百七十七・七米、護岸延長二百八・八米、埋立面積五萬三千七百九十七平方米ニシテ大正十一年二月初メテ竹崎町地先五・四米岸壁ニ着手シ、漸次夫レヨリ兩側ニ進ミテ函ノ据付ヲナシ二・七米岸壁、護岸及埋立ノ諸工事ヲ施行大正十五年六月ニ完成シ、昭和三年十月三十一日之レヲ下關市ニ下付セリ。

東工區ハ停車場以東ニ屬スル部分岸壁延長千七百三十米、防波堤延長百二十七・二米、埋立面積八萬五千六百三十五平方米ニシテ岸壁ハ大正十三年五月水上警察署前面七・二米及五・四米岸壁ノ分岐點ヨリ着手、東西雙方面ニ進ミテ函ノ据付ヲナシ二・七米、三・六米、一・八米ノ各岸壁ヲ順次施工シ、其ノ内部ヲ埋立テタル外、昭和二年九月ヨリ防波堤工事ニ着手シ、同五年三月全部ノ竣功ヲ見タリ。是等埋立地及岸壁ハ部分完成ノ都度下關市ノ希望ニヨリ利用承認ヲナシ、市ニ於テ目下夫々陸上設備ヲナシツツアリ。

棧橋工事ハ昭和三年十二月唐戸町地先ニ設置スルモノヨリ着手シ、同五年三月ニ至リ三箇所全部ノ完成ヲ見タリ。

材料勞力 使用材料中「セメント」ハ小野田及淺野兩會社製ノモノヲ主トシ、函内填充及頂部混凝土ニハ、此ノ外ニ唐津産火山灰及製鐵所製高爐「セメント」ヲ使用セルコトアリ。是等凡テ標本ヲ大阪土木出張所試験係ニ依囑シテ規格試験ヲ行ヒタリ。砂利ハ主トシテ玄海ニ面スル山口縣豐浦郡宇賀村本郷ノ海岸ヨリ採取使用シ尙同縣下ノ吉田川、厚狹川、岩國川ノモノヲ採取シ、併セテ割砂利及製鐵所製鑛滓砂利ヲモ使用シタリ。砂ハ吉田川尻海岸ヨリ採取セリ。又捨石及裏込用雜石ハ關門海峽東口白野江海岸及西口彦島町字畑口海岸ニ於テ石材採取權ヲ獲得シ直營採取運搬シタル外、地質良好ナル部分ノ捨石ニハ、關門海峽改良工事ヨリ生ゼル碎石ノ良質ナルモノヲ利用セリ。函進水臺、製作臺及型枠等ニハ紀州高野山ノ檜材及米松ヲ、防舷材ニハ濠洲産「ター

昭和五年三月

內務省下關土木出張所

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷人 島 連 太 郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三 秀 舍